

蛇

かず十日ほどは、わだかまれるまゝ活てをれり、後はまなこをふさぎいくとせ經ても、かたちそ
こなはれすといへり、そを見けるに長さ一尺あまりもあるらむ、わだかまりつゝ尾の先平らけ
く三の角ありて、龍のごと口は頭のさき、はまでさけ、常の蛇とはいとくことなり。

〔倭名類聚抄十九〕蛇。崔豹古今注云、玄蛇、綠蛇。音元、字亦作嬾、内典云、蛇加良須倍三、各隨其色名之。

〔箋注倭名類聚抄八〕玉篇蛇鰐同上、蛇見法華經譬喻品及普門品略申按崔豹所謂玄鰐綠蛇、蓋榮蛇之玄紺者、卽蠍蛇之一種、非蛇類、故本草和名石龍子條引之、源君所見古今注誤作綠蛇、遂與法華經蛇混也、法華經譬喻品云、蛇、蝮、蝎、蜈蚣、蚰蜒守宮、百足、𧈧、𧈧鼠諸惡蟲輩交橫馳走、玄贊云、蛇依遺教經黑短蛇也、又云、蛇有二、一蜥蜴、二黑短蛇、故遺教經言譬知黑蛇在汝室睡云々、睡蛇既出乃可安眠、慧琳音義云、蛇者黑短蛇、與餘蛇別、非守宮也、不爾此經下別守宮、上復說蛇、一何重沓、故俗書解與經義別、經則內典之蛇、不與古今注鰐同、加良須倍美之蛇、宜引法華經若遺教經源君引古今注爲梵典所云蛇非是、李時珍曰、烏蛇有二種、一種劍脊細尾、一種長大無劍脊、而尾稍粗者名風稍蛇、小野氏曰、風稍蛇可以充加良須倍美也。

〔類聚名義抄十〕蛇。カラスヘミ

〔下學集上〕氣形蛇。カラスヘミ

〔和漢三才圖會龍蛇四五〕烏蛇 黑花蛇 烏稍蛇 加良須久知奈波略 中

按烏蛇見人則舉頭追來、逃人不可正直走、如文字則蛇不能追至也、雖追著、此蛇不敢爲害、

〔重修本草綱目啓蒙二十八下〕烏蛇 一名黑風蛇。蛇譜

舶來アリ、色黒クシテ、脊ニ稜アリテ圓ナラズ、尾末數寸、急ニ細クシテ、常蛇ニ異ナリ、薩州谷山郡ノ黒蛇舶來ノ烏蛇ニ異ナラズ、又山野ニ全身色黒クシテ、腹淡黒ナルモノ多シ、大者ハヨク人ヲ逐フ、是ヲカラスヘビ京ト云、一名カラスクチナハ、同上ウシクチナハ、大和ツチムグリ佐州ス。